

IBM
IBM Application Services

JaSST'06 in Osaka

テストングライブ'06徹底分析 ～短期開発のテスト戦略はここにある～

2006.05.11
ウィークリーミーティング

ON DEMAND BUSINESS

© 2006 IBM Corporation

IBM Application Services

自己紹介

IBM 日本アイ・ビー・エム株式会社
アプリケーションサービス ⅡA.スキルツース
第四プロフェッショナル開発

ITスペシャリスト
堀内 俊寛

〒261-8522 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目1番
TEL: 043-0322181 FAX: 043-03211333
E-mail: jk0224@jp.ibm.com
http://www.ibm.com/jp

社内用アプリケーション
開発・保守をします

プロジェクトリーダー
アプリ開発者
テスト設計者・担当者
をやります

© 2006 IBM Corporation

IBM Application Services

テストケースを作成するに当たり、 2つのテスト戦略立案の方針を決定しました

- 1. テスト時間の効率的利用**
主要機能の絞込み
共通部分の見極め
テスト支援ツールの利用
- 2. 実際に使用される状況を想定する**
バグが大きなトラブルを招きそうな箇所
バグが紛れ込みやすい箇所

© 2006 IBM Corporation

IBM Application Services

2つのテスト戦略の方針をもとに 3つのテストケース策定のためのポイントを考えました

1. テスト時間の効率的利用
2. 実際に使用される状況を想定する

主要機能の絞込み
バグが大きなトラブルを招きそうな箇所
バグが紛れ込みやすい箇所
共通部分の見極め

③典型的パターン
①共通基盤
②リスクベース

© 2006 IBM Corporation

IBM Application Services

主要機能を絞り込み、 3つのテスト策定パターンをテストケースへと落とし込みます

	③典型的パターン		②リスクベース
	①共通基盤	System	
開発者向け機能 新規論文投稿機能 論文投稿機能 論文検索機能 論文閲覧機能 論文管理機能	PHP 経由での DB アクセス	ログイン・認証機能 セッション機能 権限コントロール機能 テンプレート読み込み機能 テンプレート置換機能	投稿者にとって重要な情報 必須情報入力への反映 特殊文字の対応 採用論文の反映 個人情報保護

© 2006 IBM Corporation

IBM Application Services

例えば、以下のようなテストケースを作成しております

Microsoft Excel - Testing Log - Test Case - Normal - Edit

Test Case ID	Test Case Name	Tester	Pass/Fail	Defect ID	Defect Status	Defect Type	Defect Priority
1	新規論文投稿機能	開発者	成功				
2	論文検索機能	開発者	成功				
3	論文閲覧機能	開発者	成功				
4	論文管理機能	開発者	成功				
5	新規論文投稿機能 (重複投稿)	開発者	失敗	1001	発生	機能	高
6	論文検索機能 (特殊文字)	開発者	成功				
7	論文閲覧機能 (権限)	開発者	成功				
8	論文管理機能 (削除)	開発者	成功				
9	新規論文投稿機能 (個人情報)	開発者	失敗	1002	発生	セキュリティ	高
10	論文検索機能 (重複)	開発者	成功				

© 2006 IBM Corporation

04. Application Services 13/19

当日は、テストを効率的に行うという方針で行い、
そのために以下の方法を採用しました

複数ブラウザで平行稼働


分岐条件に応じてブラウザを立ち上げ、バラレルにテストを実施

テスト支援ツールの利用

ウィンドウが透過するフリー・ツールの使用

他には、、、

- ・テストングライブを楽しむ
- ・バグを一つは指摘する



© 2006 IBM Corporation

04. Application Services 13/19

End of file

© 2006 IBM Corporation